序

ある技術の研究開発に着手するに先立って，そのテーマの評価が行なわれる．これにはさまざまの手法があって，その研究自体もまた今後の研究テーマであって，しかも困難な問題のひとつである．

こうした評価の重要なファクターとして，成功の確率，成果の利用される確率，そして成果の利用によって得られる利益の大きさがある．これらが掛け合わされると，ひとつの数量となり，それが着手に価するか否かの判断の資料となる．一般に多くのものを比較するとき，それぞれが単一の数値によって表わされると，はっきりして便利ではあるが，そうすると内容が埋没してしまう．

この場合，成果の利用による利益は比較的小さくても，成功の確率や成果の利用される確率の高いものと，その逆のものとが，同等の値になることがあろう．そのときどちらを取るかという問題がある．数値は同じでも性格が異なるのである．前者は安全，保守的であり，後者は挑戦的，積極的である．前者の例の中には，すでに行なわれている技術システムの部分的改良などがあり，後者の例としては，未利用資源や未利用空間の開発などであろうか．いずれが価値が大きいということではないが，そこにその研究者や，機関の性格が現れるのではなかろうか．

評価の要素はほかにも沢山あるが，企業ないし研究所としては，単に個々のテーマの最終評価の大きさの順序に選ぶということでなく，いろんな性格のものを合わせ行なうことが必要であろう．そういう意味で，この所報もさらにバラエティに富んだものでありたいと願っている．

1974年4月

清水建設株式会社研究所　所長

工学博士　烏　田　専　右